2026-10-28　NO.28

University e-Learning Association

大学ｅラーニング協議会ニューズレター

発　行：大学ｅラーニング協議会　事務局

1．会長挨拶

会長　望月 雅光
関西国際大学

加盟大学および賛助会員の皆様

日頃より、本協議会の活動に多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

近年、生成 AI の急速な発展は、社会のあらゆる分野に大きな変化をもたらしています。高等教育においても、その影響は極めて大きく、情報収集、文章作成、学修支援、採点支援など、さまざまな場面で活用が進んでいます。生成 AI は、学修や研究の可能性を大きく広げる技術として期待される一方で、その活用には慎重に考えるべき課題も存在しています。

例えば、学修者が AI に過度に依存することで、自ら問いを立て、情報を吟味しながら考察を深める機会が失われるという懸念があります。また、大学においては学修面だけでなく、情報セキュリティ上のリスクについても十分な配慮が必要です。個人情報や未公表の研究データ、共同研究先から提供された機密情報などが不用意に生成 AI へ入力された場合、情報漏えいにつながりかねません。さらには、AI が生成した情報には誤りや偏りが含まれることもあり、その結果を無批判に利用することは、学術研究や教育活動の信頼性を損なう危険性もはらんでいます。

こうした AI 時代において重要になるのは、AI を適切に利活用するための判断力と、主体的に学び続ける姿勢ではないでしょうか。学生には、「どの情報を AI に入力してよいのか」「AI が示した結果をどのように検証するのか」「AI を活用しながらどのように学びを深めるのか」といった力を身に付けさせる必要があります。AI リテラシー、情報セキュリティ、情報倫理、アカデミック・インテグリティは、これからの大学教育を支える基盤的な能力として位置づけられるでしょう。

加えて、学生が自ら学修目標を設定し、学修状況を振り返りながら学びを進める自己調整学習の重要性も高まっています。生成 AI は学修を支援する有効なツールとなり得ますが、学修の主体はあくまでも学修者自身です。AI を活用しながら、自ら考え、判断し、学び続ける力を育成することが、これからの大学教育に求められると考えています。

本協議会は、共通基盤教材の共有をはじめ、これまで e ラーニングを通じた学修機会の提供と教育の質向上に取り組んでまいりました。また、加盟校間の連携を通じて、ICT 活用教育や学修成果の可視化、教育 DX の推進に取り組むとともに、近年では生成 AI をはじめとする新たな技術の教育利用についても知見を共有し、その可能性を模索してきました。

今後は、教育 DX のみならず、AX（AI Transformation）の視点も取り入れながら、AI の活用を前提として教育の在り方そのものを見つめ直すとともに、「学修者本位の教育」の実現に向けた活動を進めてまいりたいと考えています。

加盟大学および賛助会員の皆様とともに、知見の共有、教材・教育資源の活用、実践事例の蓄積を通じて、高等教育の発展に寄与してまいります。

今後とも、本協議会へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2. 加盟組織一覧

会長	望月 雅光（関西国際大学）
代表幹事校	佐賀大学
事務局長	新村 正明（信州大学）
監査校	公立千歳科学技術大学、法政大学
会計	西尾 信大（大手前大学）
幹事校	岩手県立大学、愛媛大学、大手前大学、金沢大学、公立千歳科学技術大学、佐賀大学、信州大学、創価大学、長岡技術科学大学、法政大学、山梨大学
加盟大学	愛知大学、大阪大学、岡山理科大学、尾道市立大学、金沢学院大学、金沢工業大学、関西国際大学、畿央大学、九州工業大学、京都情報大学院大学、熊本大学 桜の聖母短期大学、札幌学院大学、札幌大学、湘南工科大学、清泉女学院、中信金融管理學院、帝塚山大学、電気通信大学、徳島大学、長崎国際大学、長崎大学教育開発機構、八戸工業大学、兵庫医科大学、防衛大学校、北星学園大学、北海道医療大学、三重大学、武蔵野大学、桃山学院大学、盛岡大学、酪農学園大学
賛助会員	一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸、NPO 法人コンソーシアム TIES、株式会社映像センター、株式会社カルク、株式会社デジタル・エデュケーショナル・サポート、株式会社ナレロー、株式会社プラットフィールド、株式会社メイドインクリニック、公益財団法人日本漢字能力検定協会、こだまリサーチ株式会社

50 音順 加盟大学 43 校 賛助会員 10 社（2026 年 9 月末現在）

3. 2025 年度 UeLA フォーラム･総会の報告

1）2025 年度フォーラム

2026 年 3 月 4 日・5 日の 2 日間、信州大学にて「生徒・学生の学びを深化させる初等中等教育と高校教育と大学教育の円滑な接続」をテーマにフォーラムを開催しました。

初日午前は、第二部会の主催により「新たな UeLA 共通基盤教育：LTI 型システムの提供への取り組み」と題した事例報告が行われました。

午後の基調講演では、文部科学省初等中等教育局の伊勢本 惇示氏（学校情報基盤・教材課学びの先端技術活用推進室)をお迎えし、「初等中等教育における生成 AI の利活用」をテーマにご講演いただきました。

続く特別講演では、信州大学 佐藤 和紀氏より「初等中等教育における生成 AI がかえる学びの未来」、同大学の 香山 瑞恵氏 、平井 佑樹氏 より「信州大学　工学部における入学前教育の取り組み」をテーマに、それぞれご講演いただきました。

その後、当協議会会長　望月雅光氏の司会のもと、講演者を交えたパネルディスカッションを行い、生成 AI の教育への活用や、初等中等教育から大学教育への学びの接続について、活発な意見交換が行われました。

2 日目午前は、第二・第三部会の主催により「共通基盤教材の紹介とその活用事例 ― 8 大学連携共同教育推進事業の 15 年を振り返って」と題した事例報告が行われました。

午後には、日本リメディアル教育学会（JADE）ICT 活用教育部会との共催による、JADE & UeLA 合同フォーラムを開催しました。研究発表では、ポスター発表 4 件・口頭発表 6 件の計 10 件の発

表が行われました。
　本フォーラムには 2 日間で 76 名の方にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様ならびに開催にあたりご協力いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。
　なお、フォーラムの予稿集および発表資料は、下記のアドレスにて公開しております。ぜひご覧ください。
JADE & UeLA 合同フォーラム予稿集　https://uela.jp/proceedings/

（UeLA 事務局）

2）2025 年度総会

フォーラム同日（2026 年 3 月 4 日）、2025 年度総会が開催されました。審議事項、報告事項は以下の通りで、全て承認されました。

■審議事項

1. 決算について
2. 予算について
3. 規約の変更について

■報告事項

1. 2025 年度加盟校・退会校について
2. JADE & UeLA 合同フォーラム 2025 について
3. 事例報告発表者の謝金及び旅費に関するルールについて
4. 共通基盤教材利用状況
5. 部会実施報告
6. 事務局業務実施状況

4. 協議会活動報告

■2025 年度

開催日		開催方式
2025 年　4 月　28 日	事務局会議	Zoom
5 月　19 日	幹事会	Zoom
7 月　23 日	幹事会	Zoom
9 月 8～10 日	日本リメディアル教育学会第 20 回全国大会 （システム運用部会・コンテンツ教材共有部会協力）	現地
9 月　18 日	幹事会	Zoom
10 月　27 日	幹事会	Zoom
11 月　26 日	幹事会	Zoom
2026 年　2 月　2 日	幹事会	Zoom
3 月　3 日	幹事会	※ハイブリッド
3 月　4 日	2025 年度総会	現地
3 月 4・5 日	JADE & UeLA 合同フォーラム 2025	現地

※ハイブリッド（信州大学・Zoom）

■ 2026 年度

開催日		開催方式
2026 年　7 月　6 日	幹事会	Zoom
9 月　7 日	幹事会	Zoom

5. 部会活動報告･活動予定

1）第一部会　システム運用部会

LMS をはじめとする学習支援の ICT は、今日の教育現場において欠かせない基盤となっています。システム運用部会では、教育機関におけるウェブサービスやシステムの構築・運用に関する情報共有を目的として、各種イベントを開催しています。

今年度は、すでに多くの教育現場で利用が進んでいる生成 AI に着目し、システム運用の観点から活用事例やノウハウを共有するオンライン情報交換会を 2027 年 1 月下旬に企画しています。交換会では、システム運用者による生成 AI 活用の実践事例を紹介するとともに、教育機関のシステム管理・運用に携わる皆さまにとって有益な情報交換の場となることを目指しています。
イベントの詳細については、ホームページ内の「お知らせ」に随時掲載いたしますので、ぜひご覧ください。

（部会長　九州工業大学　山口 真之介）

2）第二部会　コンテンツ･教材共有部会

Moodle 上で Computer Adaptive Test（CAT）を利用できる Learning Tools Interoperability（LTI）型システム「Solti」を公開しました。CIST-Solomon で運用してきた CAT を、他の教育機関でも自機関の Moodle から利用いただけます。現在、試用いただける教育機関を募集しております。

部会ではこうした教材の効果的な使い方を共有し、引き続き各教育機関や研究プロジェクトのご協力を得ながら、教材共有と活用の仕組みの拡大を進めてまいります。

（部会長　公立千歳科学技術大学　山川 広人）

3）第三部会　ICT 活用教育事例部会

第 3 部会は第 1・第 2 部会と連携して協議会加盟大学が提供し合うシステムや教材等を活用しながら教育実践に取り組み、そのノウハウや知見を協議会内で共有することを目的とする部会です。

今年度は、急速に発展している生成 AI を用いて、学生が書いたレポートや振り返りの文章を分析し、授業実践や授業改善に活かしていくような実践事例の共有を進めたいと思います。12 月には以下のとおり研究会を行います。皆さんのご参加をお待ちしています。

テーマ：生成 AI を活用した授業実践・授業改善事例から AI 利用時の留意点を考える
日　時：2026 年 12 月 6 日（日）13 時から 15 時
開催方法：対面とオンラインの併用
場　所：横浜駅周辺を予定
趣　旨：生成 AI の急速な発達により、工夫次第によって大人数の授業であっても学生によるさま

ざまな出力を分析し、授業に活かすことが可能になってきました。この研究会では、生成 AI を活用した授業実践・授業改善事例を共有しながら、その一方で AI 利用時にどのような点に留意すべきかを考えたいと思います。
発表・参加申込：11 月 15 日（日）までに、以下のリンクからお申し込みください（Google フォームを利用しています）。
https://forms.gle/T19Cd4w9wgG1CmPc7
お問い合わせ：日永龍彦（UeLA 第 3 部会長・山梨大学　thinaga[at]yamanashi.ac.jp）
※ メール送信の際には [at] を@に変換してください。

（部会長　山梨大学　日永 龍彦）

6. 2026 年度フォーラム･総会について

1）JASS & UeLA 合同フォーラム 2026 趣旨

急速な社会の変化や少子化の進展、技術革新を背景に、高等教育機関には柔軟かつ持続可能な教育体制の構築が求められています。これからの大学教育が社会のニーズに応え、より豊かな学びの場を提供し続けるためには、単独の機関による取り組みだけでは限界があり、組織や枠組みを超えた「連携」が不可欠な時代となっています。

ここでいう「多様な連携」とは、大学間連携による教育リソースの共有をはじめ、高大連携による初等中等教育との円滑な接続、産学連携によるリスキリングや生成 AI の活用などの実践的教育の推進、さらには地域社会との協働など多岐にわたります。これらの連携は、学生に多様な価値観や実践的な学びの機会を提供するだけでなく、大学自身の教育力向上や機能強化にも直結する重要な戦略です。

こうした多様な連携を実効性あるものとし、地理的・時間的・組織的な障壁を乗り越えるための鍵となるのが、e ラーニングやデジタル教材および生成 AI の活用です。ICT やオンライン教育プラットフォームを共通基盤として活用することで、各機関の強みを持ち寄り、多様な学習者に対して質の高い教育をシームレスかつ柔軟に提供することが可能となります。

本フォーラムでは、「多様な連携が描く高等教育の未来図」をテーマに掲げ、多様な連携の先進的な事例や今後の展開についてのご講演をいただきます。e ラーニングやデジタル技術が連携をどう支え、発展させるかについて実践例を交えて議論するとともに、参加者の皆様とこれからの高等教育のあり方について幅広い知見の共有を図っていきたいと思います。

（佐賀大学　米満 潔）

2）JASS & UeLA 合同フォーラム 2026 概要

■　日時　2027 年 3 月 3 日（水）、4 日（木）

会場　佐賀大学　本庄キャンパス　教養教育 2 号館
テーマ　「多様な連携が描く高等教育の未来図」
内容　基調講演：　調整中
特別講演 1：　九州国立大学間 教養教育連携科目「九州・沖縄学」について（仮）
熊本大学　川越　明日香氏
特別講演 2：　大学間連携共同教育推進事業（8 大学連携事業）の総括（仮）
公立千歳科学技術大学　小松川 浩氏
事例報告 1：　調整中

事例報告 2：　調整中

総会

7. 共通基盤のご案内

1）共通基盤システム活用のご案内

協議会では、文部科学省補助事業「大学間共同教育連携事業」の成果を引き継ぎ、会員向けに基盤教育向け e ラーニング教材の共同利用を開始しました。初年次教育等に向けて、数学（中学・高校・大学初級）、日本語、英語、情報、SPI 対策、レポートの書き方、プログラミングを提供しています。また、Moodle 上で Computer Adaptive Test（CAT）を利用できる LTI 型システム「Solti」も試験公開を開始しました。

会員大学は 1 年間の試験利用が無料、本格利用は年間 7 万円で全科目および Solti を利用できます。詳細は協議会ホームページ内の特設サイトをご覧ください。

https://uela.jp/system/

（公立千歳科学技術大学　山川 広人）

2）大学間連携　FD 研修　要請のご案内

協議会では、ICT を活用した FD 研修やシステムに関する利用説明に対する、大学間の調整を行っています。

上記の共通基盤を活用した事例の紹介、入学前教育の実践事例、反転学習の取組み、また、Moodle の運用方法等、連携大学が提供可能な情報について、講師派遣の形で、各大学の FD 研修などに派遣をいたします。

協議会 HP の「視察・講師派遣」ページをご覧いただき、ご興味のある大学は、UeLA 共通基盤問い合わせ窓口　kiban@uela.jp までご連絡ください。

「視察・講師派遣」ページ：https://uela.jp/visit/

8. 入会のご案内

当協議会は、日本における e ラーニングを先導的に推進している大学が集まり、教育・運用方法に関する知識交流を図りながら、緩やかな大学連携の在り方を検討していくことを目的とし、2009 年 2 月 6 日に設立をいたしました。

お陰様をもちまして、加盟組織も 53 機関（2026 年 9 月末現在）となり、今後も当協議会の目的である、e ラーニングに関するノウハウ（知識）や、教育方法と密接に連携した FD の取組などを積極的に公開し、e ラーニングを活用した効果的な授業展開や新たな教育方法の確立を目指すべく、協議会運営を行って参りたいと考えております。

つきましては、部会の活動紹介ならびに本協議会規約をご覧頂き、加盟についてご検討頂けましたら幸いでございます。

なお、加盟を希望される場合は、加盟申込ページ https://uela.jp/membership/application/ のファイル提出フォームより、「大学 e ラーニング協議会　加盟申込書」をご提出頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

9．事務局からのご案内

1）会費納入のお願い

2025 年度および 2026 年度の会費未納の組織は、納入をよろしくお願いいたします。

※銀行口座の代表者名義が変更になりました。
お振込みの際は、変更後の名義にてお手続きくださいますようお願い申し上げます。

■振込口座

銀 行 名：　三井住友銀行
支 店 名：　西宮支店（店番 370）
口座番号：　普通 8954271
口座名義：　ﾀﾞｲｶﾞｸｲｰﾗｰﾆﾝｸﾞｷｮｳｷﾞｶｲ ｶｲﾁｮｳ　ﾓﾁﾂﾞｷ　ﾏｻﾐﾂ
　　大学ｅラーニング協議会　会長　望月　雅光

2）加盟大学および賛助会員イベント案内

加盟機関主催のフォーラム等の案内を当協議会ホームページ上でご案内させていただいております。掲載を希望する機関は事務局までご連絡ください。

協議会加盟大学の皆様が学会表彰を受けられたニュース等もニューズレターに掲載させていただきたいので、情報がございましたら是非お寄せください。

大学ｅラーニング協議会ニューズレター NO.28

発　　行：大学ｅラーニング協議会　事務局
発　行　日：2026 年 10 月 28 日
お 問 合 せ：office@uela.jp